

3月例会・巨勢古道探訪

～古代の道「巨勢の道」と古代豪族～

(担当幹事；川井、古川、寺田)

3月25日(火)春の麗らかな一日、26名の参加者を得て「巨勢の道」約9kmを歴史文化クラブの案内で探訪しました。

9時30分近鉄葛駅を出発、まず曾我川西岸の畑の中にある「巨勢寺塔跡」を訪れる。椿の林に囲まれて塔の礎石だけが残る。古瀬を本拠地とした古代豪族巨勢氏の氏寺で法隆寺伽藍様式の大寺院があったとされ、多数の古瓦や礎石が発掘されている。しかし往時のスケールを想像するのはむづかしい。



巨勢寺跡にて 岩本先生の解説

巨勢氏の始祖は許勢小柄宿禰で、孝元天皇の子孫武内宿禰の子とされる。6世紀朝鮮半島との外交・軍事に従事して台頭した。継体天皇擁立に功績があり、継体朝から平安時代に亘って大臣、大夫、左大臣、大納言、中納言を輩出した。

次に巨勢寺の子院の阿吽寺を訪れる。椿の名所として名高く、本堂は満開の椿に囲まれている。古瀬町自治会長川田さんをお願いして特別に開帳していただく。本尊は十一面観音、藤原時代の作で豊麗なお顔立ち、脇侍に薬師如来、不動明王が並ぶ。堂内には犬養孝先生の揮毫。

「巨勢山之 列列椿 都良都良尔 見乍思奈許勢乃春野乎」(巨勢山のつらつら椿つらつらに見つづ偲はな 巨勢の春野を)(万葉集巻1-56)大宝元年(701年)9月、持統太上天皇が文武天皇と共に紀国行幸の際、供の坂門人足が椿咲く春を想って詠んだと記されている。



玉椿山阿吽寺にて(右端は川田自治会長)

再び曾我川に沿って進み、ヒキアイモチという珍しい神事で有名な八幡神社を拝観し、次いで水泥古墳へ。6～7世紀築造の円墳で、横穴式石室を有する。南北の2基の古墳は10代続く西尾家の敷地内にあつて昭和36年国史跡に指定された。日本書紀皇極紀元年、蘇我大臣蝦夷が「預め双墓を今来に造る。大陵を大臣の墓とし小陵を入鹿の墓とす」とある。古くは深泥古墳2基をこれに当てたが、今では巨勢氏の首長の一人の墓と考えられている。

朝野川沿いの道を登り栗坂峠を目指す。路傍には可憐な草花が咲き乱れて春爛漫。サンシュ、レンギョウ、ヤマブキなどの黄花が目立って美しい。

栗坂峠に着く。展望が開け金剛・葛城の連山が広がる。葛城川沿いの山麓は葛城氏の本拠地である。葛城襲津彦を始祖とし、娘の磐之媛は仁徳天皇の皇后で履中、反正、允恭天皇の母。5世紀には天皇家に拮抗するまでに権勢を極めた。

峠から葛城川畔に下り、葛木御歳神社に至る。御歳神は稲の神、五穀豊穰の神として尊崇を集めた。新年に御歳神を祀って鏡餅を供え、餅を長老が子供たちに分け与えたのが「お年玉」の始まりとの川井さんの説明。葛城川をさらに遡り、医王山船宿寺に至る。行基菩薩の開祖で、花の寺としても有名。満山、早春の花に彩られた景色に感嘆の声が上がる。

今回はここで解散(14:20)。

バス停「船路」からバスに乗車、巨勢路の自然と歴史の余韻に浸りながら、帰途に就きました。

(中井 弘)